



山田だより

2月号

令和6年度
神戸市立山田小学校

学 校 林

先日はお忙しい中、オープンスクールに多くの方にお越しいただきありがとうございました。物産展では、子供たちのがんばりや学習の成果をご覧いただけたのではないのでしょうか。販売コーナーは全て完売。閲覧・体験コーナーでは、多くの方より励ましのメッセージ等をいただき、子供たちもとても満足げでした。午後からは、地域の方々との合同防災訓練。「人と人のつながりこそが防災に対する一番の対策」という防災メッセージ（「教育委員会だより」より）が思い出されます。地域・保護者の皆様、本当にありがとうございました。

さて、山田小学校には「学校林」があります。学校林とは、学校が保有する森林のことで明治時代に始まったとされています。令和3年の調査によりますと学校林を保有している学校は全国に2233校（市内5校）で全体の約5%です。

《 山田小学校の学校林 》 山田郷土誌より

- 明治39年 原野の角井辰右衛門氏より又新小学校（山田小学校の前身）に寄付のお申し出
- 明治40年 正式に学校名義で登記 山田小学校学校林の始まり
- 昭和22年 山田村が神戸市に合併 神戸市立山田小学校となる
- 昭和31年 山田小学校創立80周年記念事業で杉苗1万2千本植樹
- 昭和38年 地方自治法改正 所管が教育委員会から管財課に移る
- 昭和53年 学校林が山田小学校と無縁の存在となるのを惜しんで神戸市へ要望書（特別な配慮を要望）
- 同年 当時の市長より「ご趣旨を尊重します」との返事



卒業を目前にした6年生は、山田小学校に通ったことを記念に残すため学校林を訪れ、卒業記念碑を建てます。また、杉の枝や葉を持ち帰り、来年の5年生の「キャンプ飯」の燃料としても活用しています。山田郷土誌によりますと、以前は植林・枝打ち・薪作り等の生産活動や遠足、心身の鍛錬等に活用されていたとの記述があります。尚歯会（老人を敬う敬老の会）では、学校林で摘んだわらびをご老人たちに振舞っていたこともあったようです。

昨年の夏、地域の方に案内していただき、学校林に行ってきました。手入れが必要とは聞いていましたが、途中からは行く手を阻む倒木や木々の連続。「太陽と緑の道」（休止→10月からは廃止）の面影は全くありません。ようやくたどり着くと何本もの卒業記念碑がありました。朽ちかけた記念碑の前に立てば、卒業生の姿が想像されます。「記念碑は歴史の証言者」うなずけます。

学校林へ続く道の整備は大きな問題です。学校だけの力では、到底できません。地域や保護者の方々に協力していただき、学校との協働した教育活動を進める必要があります。そこで「学校運営協議会※」委員の皆様にご集まりいただき現状を説明させていただいたところ、整備について快く引き受けていただきました。12月から1月にかけて3回の作業で延べ50人ほどのお力をお借りし整備は無事終了しました。本当に感謝の言葉しかありません。

創立80周年当時の第18代校長、畠田淳先生は「本校児童の健全な成長発達を願い、校下社会一丸となって美しい協力体勢のもと児童を交えて本事業を完遂することによりこれを次の世代への贈物としたい」と決意を述べられています。大変重みのある言葉です。学校林の活用方法は時代によって変わってきましたが、学校林から何を学び、どんな教育的価値が生み出せるか、ということが何よりも大切と考えます。今後の学校林の整備等のあり方については、学校運営協議会等で熟議を重ねていきます。

今年度は、2月13日（木）に6年生が学校林に行きます。山田小学校を巣立っていく7人の子供達の思いが込められた記念碑を担ぎ、整備された登山道を「思い出」「感謝」・・・様々な思いをかみしめて一步一步登っていきます。

※「学校運営協議会」とは、学校と地域が一体となって学校づくりを進めるために学校ごとに設置される「学校運営」及び「学校運営への必要な支援」に関して協議する機関です。学校運営協議会を設置した学校は、「コミュニティ・スクール」とも言われています。

校長 清水 健司